

福島大学 非行・犯罪臨床研究室 (生島浩研究室)

当研究室では、非行・犯罪からの立ち直り支援、
家族を支える視点を重視した家族臨床等を
中心とした研究を行っています

担当教員の研究テーマ

- 触法問題を抱えた精神障害者
・発達障害者の地域生活支援
- ハイリスクな子どもと家庭への
心理・社会的支援



これまでの修了生の修士論文題目

- 非行児童の立ち直りのための家族支援に関する一考察：児童自立支援施設を中心に
- 災害後の中長期的なこころのケアにおける心理職の役割に関する一考察：福島における地域援助活動を中心に
- 高校生のレジリエンスに関する一考察：グループワークと個別面接を通して
- 窃盗更生支援プログラムに関する有用性の検討

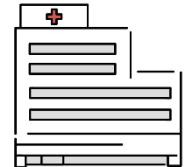
修了生の進路

総合病院、単科病院、クリニック、地方公務員（心理専門職）、国家公務員（司法・犯罪）、放課後デイサービス、教員、一般企業 等

修了生の声

花見 達也 さん（2016年度修了、医療機関勤務）

私は、精神科病院のデイケアセンターに勤務しており、就労等の、ステップアップを目指す若者を中心に支援を行っています。生島先生からは、「立ち居振舞い」という臨床家・社会人としての姿勢、「差し水」、「栄養ドリンク」といった、エンパワメントの重要性を示す言葉等、臨床をしていく上で非常に大切な事を学び、今の支援に根付いています。



武田 万由子 さん（2020年度修了生、法務省専門職（保護観察官）採用）

生島研究室では、非行・犯罪分野における家族療法の実践手法について学びました。特に、非行・犯罪からの立ち直り支援に尽力されている先生を見て、自分も支援者としてかかわっていきたいと感じました。組織的対応であるシステムズ・アプローチを基礎とした先生の実践は私のなかでも強く根付いており、国家公務員である保護観察官として精進していきます。



修了生の活動についてご関心のある方は、

『福島を起点とした地域心理臨床
—システムズ・アプローチの展開—』
(SEEDS 出版、2021)

をご一読ください!

特別割引価格：3,000円（税込・送料無料）
申込先：下記研究室訪問問い合わせ先まで
ご連絡ください 

福 島

福島を起点とする地域心理臨床

—システムズ・アプローチの展開—

生島 浩 編著

社会のシステムが壊れ、人間関係が断片化し、自然との根本的な信頼関係が崩れた福島のあの武蔵(3.11東日本大震災)に臨床心理学のコミットがどれだけ力になったか計り知れない、このコロナ禍に象徴されるような見通しの困難な変化の激しい時代にあって、一層重要になることは間違いない。 和島大学 生島浩著

臨 床

SEEDS BOOKS

目次

- 第1章 子どものメンタルヘルス支援
- 第2章 保健医療分野
- 第3章 福祉分野
- 第4章 教育分野
- 第5章 司法・犯罪分野
- 第6章 被害者支援
- 第7章 産業・労働分野

修了生を中心に、各分野での臨床の
実践をまとめました！



現役生の声

宮崎 誠 さん（2021年度入学）

将来、非行・犯罪からの立ち直り支援に携わりたいと思い、生島ゼミに所属しました。

生島ゼミに入ってから、司法・犯罪心理学、家族心理学、更生保護などについて学んでいます。目に見える変化として本を読むことが増えました。

大学院に進学して良かったことは、児童相談所や更生保護施設、家庭裁判所調査官などの心理職で働いている人の話を聞くことができたことです。自分が今学んでいることが、どのように仕事に活かせるのかを知ることができました。

修士論文では、更生保護施設の地域住民、一般社会での受け入れられ方を施設コンフリクトの観点から研究したいと思っています。

研究室訪問について

大学院への進学を希望されており、当研究室へご関心がある方は、研究室訪問にいらしてはいかがでしょうか。実際に見る、聞く、話すことを通して、雰囲気を感じていただければと思います。

ご希望の方は、必ず事前に下記までご連絡ください。

<問い合わせ先> shojima@educ.fukushima-u.ac.jp